

武蔵野市学校・家庭・地域の協働体制検討委員会

(第4回)

議事録

日時：令和4年1月27日（木）

場所：武蔵野市役所 東棟8階 802会議室

武蔵野市学校・家庭・地域の協働体制検討委員会（第4回）

○日 時 令和4年1月27日（木） 午後6時～午後8時02分

○場 所 武蔵野市役所 東棟8階 802会議室

○出席委員 有村委員長、渡邊副委員長、助友委員、宮崎委員、河合委員、高橋委員、高丸委員、田代委員、藤平委員、松田委員、矢島委員、北島委員、守谷委員、横山委員、勝又委員、樋爪委員

○欠席委員 島田委員

○事務局 市民活動推進課長、地域支援課長、児童青少年課長、生涯学習スポーツ課長、指導課長、統括指導主事ほか

1 開 会

【指導課長】

開会に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。

配付資料は、次第と資料1-1、資料1-2、それぞれA3の大きなものでございます。あと、資料2、これもA3の資料でございます。最後に、資料3がございます。資料の右上に資料番号がございます。事前にメールで送付させていただいた資料と同じものですが、ご確認ください。

また、本日の資料とは別に第3回検討委員会の議事録を配付しております。既にホームページにも掲載しておりますが、事前の確認の際にはご協力いただきまして、ありがとうございます。本日お配りしたのものにつきましては、どなたがご発言したかもわかるようになっております。ただ、ホームページに掲載しているものは、全て発言者の記載を取り除いておりますので、ご確認をいただければと思っております。

なお、委員会の内容について、記録用に録音・録画させていただいておりますことをあらかじめご了承願います。

本日は、副委員長に加え、オンラインで参加される委員もいらっしゃいます。これまでと同様ですが、ご発言いただく際はマイクを使用いただき、お名前をおっしゃっていただいておりますようお願いいたします。

また、会場の換気やマイクの消毒など感染対策を行いながらの委員会運営にもご協力くださいようお願いいたします。

それでは、ここからの進行は委員長をお願いしたいと思います。委員長、よろしく願います。

【委員長】

皆さん、こんばんは。オンラインでご参加の、副委員長、ロンドン朝だそうですが、おはようございます。それから、オンラインでご参加の委員も、よろしくお願いいたします。ちょっといろいろご不便があるかもしれませんが、積極的によろしく願っています。

それでは、第4回学校・家庭・地域の協働体制検討委員会を始めたいと思っています。

おかげさまで、きょう、4回目なわけですが、前回3回目のときに、私のわがままを申し上げまして、時間を延長して、かなり熱のこもった議論をいただきました。おかげさまで結構いいまとめができていますように委員長として思っておりますので、またそれをさらに今日深めていただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2 議 事

- (1) 検討委員会の協議を踏まえた学校・家庭・地域の協働体制強化イメージ（案）について

【委員長】

議事に入ります。委員の皆さんにも事前にお送りしましたが、議題1の検討委員会の協議を踏まえたイメージ図ができておりますので、それについて、皆さんからいろいろな質問があったり、事前にご覧になって、どうなんだろうというご意見等もあろうかと思いま

す。改めて事務局から説明をお願いしたいというふうに思っておりますので、それをお聞きになって、いろいろご意見等いただければありがたいというふうに思っております。

では、事務局のほうから説明をお願いいたします。

【指導課長】

では、まずは資料1-1をご覧ください。これまで3回の検討委員会でのご協議を踏まえて、今回、学校・家庭・地域の協働体制を強化するイメージ（案）を作成させていただきました。後で詳しくご説明させていただきますけれども、表にありますとおり、ポイントを「共有」「促進」「つなぐ」という形の3つに整理しております。表の右側に検討委員会でいただいたご意見と、一番右に該当テーマを記載しております。表の左側には協働体制を強化する案を示しております。

続いて、資料1-2をご覧ください。こちらは今、お話しした内容を図に表現したのになります。右下に点線で囲まれている部分は、参考として現在の体制を示しております。左側のイメージ案には、資料1-1と同様に、ポイントとして①共有、②促進、③つなぐに整理して表現しております。この図だけでは、今回、子どもを中心に、子どもたちの育ちを支える学校の運営体制ということで、これまでご協議をいただいておりますので、右上のイラストに、子どもの学びや育ちという形で位置づけさせていただいております。子どもの学び・育ちを支えるための体制を強化するイメージが左側の図というふうにご理解いただければと思っております。協働体制の強化をして、PDCAサイクルを循環させることで、子どもたちの豊かな学びや育ちを支える基盤になるというイメージとして表現しております。

それでは、記載されている内容について具体的にご説明いたします。資料1-1にお戻りください。

まず、ポイント①共有ということで、現在の開かれた学校づくり協議会を学校・家庭・地域が目標を共有する場へと拡充するということを提案させていただきます。右側のほうから現状ということで、ダイヤ四角になっているところが検討委員会におけるこれまでのご意見でございます。学校の先生方が多忙な状況では連携・協働する余裕がなく、社会に開かれた教育課程の実現が困難である、立場が異なる関係者がお互いの状況を理解し合い、視点や方向性を合わせる機会が必要である、地域の中にある学校をつくっていくには、学校・家庭・地域が責任と権限を共有できる仕組みが必要である、学校からも地域からも情報を発信し、信頼関係を築いていくことのできる仕組みが必要である、保護者の方とのディスカッションが学校が取組を進める際の決断を助けるものである、学校を取組に対する理解を得る

ことで協力を得やすくなっていく、協力していただける方が活動に楽しさを見出せる仕組みがあることが必要であるなど、ご意見をいただいております。

右側にある該当テーマは、資料2にあるとおり4つの検討テーマでございます。それに基づいて、それに該当するところということで、検討テーマの数字、また、最終的に全体を仕組みとしてどういうふうにつくっていったらいいんだろうということもご協議いただきましたので、「全」という形で記させていただきます。

四角ダイヤになっていないところにつきましては、「現状」ということで、開催回数の規定もありまして、学校・地域が目標を共有する熟議にまで至っていないという現状、要綱に委員8名以内、原則年4回と規定していること、また、現在の開かれた学校づくり協議会が学校評議員の位置づけであることや、また、学校が事務を担っているというような現状がございます。

そこから、今回の案といたしまして、左側をご覧ください。まずは開かれた学校づくり協議会を学校・家庭・地域が目標を共有し、ベクトルを合わせるための場として活用するというところをご意見等を踏まえて提案させていただきます。そして、学校・家庭・地域がお互いの状況を理解し合い、責任と権限、目標を共有するためのツールとして、校長が作成する学校運営の基本方針、また、学校の教育課程届等を活用するというところで、ここで承認などの行為等も発生するところ、また、開かれた学校づくり協議会で認めていくというところから、国が進めています学校運営協議会の機能をここで活用するというところを考えたというふうに思っております。学校・家庭・地域がお互いの状況を理解し合うことで、地域の実情を踏まえた業務・行事の取捨選択が可能になる、様々な担い手との協働による目的達成が可能になると考えます。また、家庭・地域も学校運営の当事者となることで、学校や子どもたちへの主体的な関わりが増える、学校や子どもたちの変化を実感できることが、次の活動の動機となるというふうに考えます。さらに、学校は地域や保護者の理解と協力を得た教育活動を行うことで「社会に開かれた教育課程」の実現が可能になると考えます。

具体的に人数、回数ともに充実の方向で検討していくこと、開かれた学校づくり協議会の開催にかかる事務の担い手についても検討していくこと、また、今回、学校運営協議会の機能を活用するというところで、これまでご説明させていただいた補助金の獲得であるとか、または教員の公募というものが可能になってまいります。

続いて、ポイント②でございます。「促進」ということで、学校への活動提供機能を開かれた学校づくり協議会が集中的に担い、多様な参画を促進するというところを提案いたしま

す。これまでのご意見といたしましては、教員の負担軽減をシステムとしてサポートしていく必要がある、それぞれの地域団体の役員等は通年で役割を担うことが多いという現状、担い手の課題がある一方で、力になりたい大人の存在もあるということ、あと、関わりたいけれども、なかなかきっかけがないという地域の方々もいらっしゃるというところ、そして、単発で気軽に得意分野で関わることができる仕組みが必要ということで、ずっと通年であるとか、何か役割をもつということではなく、気軽にというところをご意見としてありました。また、現状としては、学校や地域は行事ごとに協力者の調整等を行っているという現状がございます。

そこで、案といたしましては、学校への活動提供機能を開かれた学校づくり協議会が集中的に担うということを提案いたします。そうすることで、学校や地域の行事への協力者調整等に係る負担が軽減されるのではないかと考えます。そして、行事ごとに参加が可能な仕組みについて、検討をしていきたいと思えます。登録管理や協力依頼など、活動に関わる地域住民等との調整を効率化できるシステムについても、今後また検討いただきたいと考えております。そうすることで、多様な担い手の教育活動への参画が促進されること、様々な地域住民との関わりによって児童・生徒の学びが充実するというふうと考えております。

では、続いて、ポイントの3つ目でございます。ポイント③「つなぐ」ということで、ここは学校のニーズと家庭・地域をつなぐ機能を強化することを提案いたします。

これまでのご意見といたしましては、得意分野を生かした多様な活動が提供される仕組みが必要だということ、学校・家庭・地域それぞれの強みをうまくコーディネートすることが必要、支援や活動の継続性という視点で体制づくりを行う必要があるというご意見をいただいております。

現状としては、地域コーディネーターは各校1名体制であること、地域コーディネーター、個人の人脈に依存した体制で活動の多様性や継続性にも課題があるのではないかとこのように捉えております。そこで、提案といたしましては、地域コーディネーターを補佐するサポーターを複数名選任する、様々な強みをもったチームでコーディネートに当たるということによって、教育課題に応じた多様な活動の提供が可能になるのではないかと、チームでの対応により継続的な活動の提供が可能になるというふうと考えております。

このような形でこの3つを提案させていただきますが、それは先ほどご説明したように、資料1-2のイメージ(案)になります。ポイント①の「共有」が学校・家庭・地域が目標を共有する機能として、学校運営協議会の機能を活用していく、また、ポイント②として、

多様な参画を促進する機能として、学校への活動提供機能を開かれた学校づくり協議会に集約します。全ての活動が開かれた学校づくり協議会を経由するのではなく、学校と地域とで直接やりとりしたほうが良いものについては、外出しの矢印で、その方法も残しています。そして、③といたしまして、学校のニーズと家庭・地域の強みをつなぐ機能ということで、開かれた学校づくり協議会のメンバーの中には地域コーディネーターが入っていらっしゃるけれども、さらにサポーターという形でチームを組んでコーディネートを行っていくということを考えております。その中で、教育委員会といたしましても、開かれた学校づくり協議会の意見をお聞きしながら、また、その意見の反映、活動の支援をさせていただきたいというふうに考えております。

では、続きまして、資料2についてご説明いたします。こちらは第3回の検討委員会の際にお配りした資料と同様に、前回の検討委員会で皆様からいただいたご意見全体を検討テーマ別に分類した資料となっております。前回は主に検討テーマの①及び④を中心にご議論いただきましたので、そこに結びつく意見が多くなっております。本日の議論の参考にしていただければと思っております。

②や③については第2回のご意見をいただいて、それについては第3回のご意見として提供させていただきました。そこを受けて、先ほど資料1-1の一番右の該当テーマということで位置づけさせていただいております。

資料の説明は以上となります。よろしくお願いいたします。

【委員長】

今、指導課長から丁寧な説明をいただきました。ありがとうございます。

皆さんにも事前に資料がいつているわけですので、いろいろご覧いただいて、今の説明とあわせてさらにお聞きになりたい点とかご質問とかあろうかと思います。資料2を参考にしつつ、主に資料1-1と資料1-2が中心の議論になろうかと思いますけれども、皆さん、どうぞ、どちらからでもいいと思いますので、関連しておりますので、質問なり、もうちょっと説明してほしいなという点があったら先におっしゃっていただければと思っておりますけど、最初に質問を受けたいんですが、いかがですか。こっちをもう一度説明してほしいとか、そういうことがありましたら、どうぞフリーにおっしゃっていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【委員】

毎回丁寧なご説明と資料をありがとうございます。

私は2つ質問があるんですけども、資料1-1のポイント①「共有」のところ、一番下の黒い丸のところに「開かれた学校づくり協議会の開催にかかる事務の担い手」、検討するということなのですが、この事務の方というのは、基本的に学校事務職員的な位置づけの方を想定されているのでしょうかというのが1つ目の質問です。

もう一つ、質問は、ポイント③のところに、地域コーディネーターとサポーター複数名という提案が書かれているのですが、すみません、今さらの質問なんですけど、地域コーディネーターの方というのは、有償の方ですよね。そうすると、サポーターも有償扱いでという理解でよろしいでしょうか。

以上、2点です。

【委員長】

では、2点、事務の担い手ということとコーディネーターとサポーターの有償の点、ちょっとお答えいただければと思います。

【指導課長】

資料1-2の図のほうをお開きいただきたいと思います。これまで開かれた学校づくり協議会は学校評議員の形ということで、学校の中で校長先生に学校の状況についてご説明いただいたり、また、意見をいただいたりという、そういうような機能として行っていたところがございますけれども、今回は学校運営協議会の機能を活用していきたいというふうに思っていることと、さらに、地域・学校協働活動の本部の機能としてありますけれど、上下という意味じゃなくて、学校から外に出ている、少し重なりがありますけれども、そういうイメージで今回開かれた学校づくり協議会を真ん中に位置付けています。

ということで、現在、開かれた学校づくり協議会等については、副校長先生を中心に、いろいろ開催通知であるとか資料の準備とかしていただいていますけれども、もうちょっと学校から離れたというわけじゃないですけども、外出しした形で開かれた学校づくり協議会の運営を行っていく。そういう中で、先ほどもう一つの質問にも重なるところがございますけれども、現在、事務局として考えているところといたしましては、地域コーディネーターやサポーターの方々を中心にチームを組んでいただいて、開かれた学校づくり協議会のいろいろな事務であるとか、また、先ほどポイント②でご説明させていただきました、地域コーディネーターの方も地域の方々に情報提供や協力依頼、募集をして参加いただいている、また、それは学校のオーダーに応じてですけども、調整等も含めてチームで行っていただくということを想定しております。これについても、検討するとありますけれども、

この案をもとにさらに深めていただいて、本当にそれでいいのかということも含めて、事務局をどういうふうに担っていくのかをご検討いただきたいとも思っております。

現在、地域コーディネーター、これについても報酬をお支払いして行っていただいておりますけれども、サポーターというような形でいけば、開かれた学校づくり協議会の委員としての報酬もありますけれども、それにプラスしてということも含めて考えているところでございます。

【委員】

ありがとうございます。

【委員長】

よろしいでしょうか。ありがとうございます。

今の事務の担い手というところは、図でいうこのところですよ、白ぬきでサポーターと書いてある。今課長からこの部分についてご説明いただいたのだと思うんですけれども、よろしいでしょうか。

改めて確認の意味で質問にお答えいただきました。ありがとうございました。

ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。どうぞ。

【委員】

1-1のポイントの①のところ、開かれた学校づくり協議会のメンバーで、長ですとかそういった役割分担はどういうふうに想定しているのでしょうか。また、トップがだれになるかですね。

【委員長】

そうですね。ポイント①のところの開かれた学校づくり協議会、組織というか、長はだれかとか、そういう組織構成についてのご質問でよろしいですね。

【委員】

今の現状は評議員的な役割ですので、割と平等であって、学校の話聞いて、それに対して意見を言うだけだったんですけど、お互いの役割分担みたいなのができてくるのかなというふうに読めたものですから。

【委員長】

そうですね。組織の長が校長先生というか、そういうのがあるので、だれが長になるかとか、そこらあたりの質問だと思うんですけど、いかがでしょうか。

【指導課長】

ありがとうございます。

これまでは、今、のお話しのとおり、学校評議員の位置付けですので、その中から代表者だけ決めていただくというような形で行っていましたが、今後の開かれた学校づくり協議会という形で強化していくに当たっては、協議会の中の委員長であるとか代表者ということメンバーの中で互選いただいて決めていただくということを今、想定はしております。ただ、ここにつきましても、そういう役割分担が必要で、どういう方が委員長になるべきなのかということもありましたら、ぜひ委員の皆様からもご意見をいただきたいと思っております。

【委員長】

委員のほうで、何かこういう構想というのは、案がございますか。

【委員】

そうですね。まず、委員を選ぶのが、今、校長先生だと思うんですけど、今後、新しい組織に対しても、どういった人材を発掘するかとか、そういったことが校長先生の力量によるような気がします。

【委員長】

学校・地域・家庭というフィールドを考えたときに、開かれた学校づくり協議会の中の構成としては、いろんな団体から選出されてくるイメージが浮かぶわけですね。そのとき、どなたに委員長をお願いするかということだと思うんですけども、これについて一般論でいいと思んですけど、大体今の状況ですと、例えば、もちろん校長先生も入るんでしょうけれども、校長先生はそういう協議会の委員長になるとか会長になるとか、そういうことの例は、僕はあまり個人的に今まで聞かないんですけども、校長先生は学校の代表という立場であるんだけど、地域とか家庭とかそういうことを考えると、違った方が長になるのかなというのはイメージとしては持っているんですね。イメージがわく人という言い方はおかしいんですけど、具体的に、こういう感じじゃないでしょうかというシミュレーションがあったら教えていただきたいんですが、いかがでしょう。

指導課長、お答えいただいているですか。

【指導課長】

今、委員長もおっしゃったように、校長先生が委員長になるということは想定しておりません。校長先生のほうで学校運営方針であるとか教育課程届について説明をして、意見、また承認をいただくというところにはありますので、校長先生は学校運営を説明する立場です。

そこに対して、これまでも目標を共有するということがありましたので、そこについては、地域であるとか、また学識経験者であるとか、教育に関して理解していただいている方などを含めて、校長から推薦いただくという形になると思います。先ほど委員から校長の力量というところがありますけれども、そこは地域の実情にも応じてどういう委員構成にしているのかということも含めてご推薦いただいて、教育委員会が任命する、委嘱するという形を考えております。

【委員長】

という説明ですけれども、今の指導課長の説明、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【委員】

はい。わかりました。ありがとうございます。

【委員長】

ここは随分イメージがわいてきたように私は思っているんですけど、皆さんはいかがでしょう。

【委員】

いろいろとみんなで出し合ったアイデアがこのようにまとまって、すばらしいなというふうに思ったんですけども、ポイント①の「共有」というところとポイント③の「つなぐ」というところが今、私の中で疑問がありまして、1つは、先ほどありました人数を充実の方向ということで、現在、例えば本校であれば、学識経験者であるとか地域の代表、地域コーディネーターであるとか、青少協の代表の方とか、子ども館の方とか、そういったところ、各団体さんの代表の方に来ていただいているんですけども、教育委員会の中でどういった方々を今後さらにふやしていきたいという方向性があるのであれば、何か示していただくとありがたいかなというふうに思ったということと、会議体として、今、8名が最大というところになっていますけれども、さらにふえてくるということになると、相当大的な会議体になってきて、本当に皆さんの意見を集約することができるのかなというところは、会を運営するということをイメージしたときに非常に難しいんじゃないかなと思うんですけど、そのあたり、どのように考えていらっしゃるのかということをお伺いしたいというのが1つです。

それと、先ほど事務の担い手について検討するとありまして、先ほど委員からもありましたけど、事務的なことを手伝ってくれる、例えば印刷であるとかということは確かにありがたいんですけど、それが今まであった副校長等事務補助と何が違うんでしょうかとい

うのがいまいわからないなというところでは、単純な事務的な手続を手伝ってくれるということであれば、それこそ今、事務補助で来ていただいていますから、その方をお願いしちゃだめなのかなというふうに思いますし、その差別化というところをどう考えていらっしゃるのかなというのが気になったところが2つ目です。

3つ目には、最後の「つなぐ」のところにあるサポーターを複数名選任するとありますけれども、このサポーターの方々の開かれの委員という設定でよいということなんですか。サポーターでかつその中の統括役が地域コーディネーターということになるというのは、協議会の中で上位と下位というか、そういった形が生まれそうな感じなんですけれども、そういう形ではないのかなと。サポーターというのはどういうふうにとらえたらいいのか、もう少し教えていただけるとありがたいです。

【委員長】

ありがとうございます。

人数の問題、それから、事務の問題、サポーターの問題、事務局でお答えできそうなところはございますか。

【指導課長】

ありがとうございます。

まず、委員の人数についてというところでございますが、現在8名以内というところにしておりますので、それぞれ地域の代表の方とか様々な立場の方に入っていただいても、あと、ほかにもこの地域の方にも入っていただきたいとか、こういう方に入っていただきたいけれども、8名以内にはおさまらないので入っていただけないということがあります。地域コーディネーターは必ず入っていただくようお願いはしているんですけども、それ以外のところで、いろいろ偏りがあって、学校からのお声を聞きますと、充足しているというところもあれば、まだまだこういう方とか保護者の方も入っていただきたいとか、いろいろなご意見をいただいています。ある程度、上限は決めなければいけないと思いますが、8名以内に限るというところについては、撤廃したいというふうには考えております。どのぐらいが適している人数か、今、委員がお話いただいたように、会議体として設けるには、何十人もは無理だと思いますので、そこについても考えていただきたいと思います。

副校長等事務補助と何が違うのかというところで、副校長等事務補助については、副校長等の補助なので、現在、開かれた学校づくり協議会のいろいろなお手伝いをいただいているというところなのかなというふうに思いますけれども、先ほどご説明したように、学校から

すると、外出しをするというところがございますので、副校長等事務補助とはまた違う方を任用するのか、これは今後いろいろとご協議もいただきたいんですけども、副校長等事務補助の方も巻き込んだ形で開かれた学校づくり協議会を進めていくということも一つ形としてはあると考えています。それはそれぞれの学校の実態等にも応じるのか、あと、副校長等事務補助の役割の中でどういうふうに考えていくのかということもあるかなというふうに思っております。

ちょっと先んじた話をしてしまいますけども、事務局的な機能もあるとすると、職員室であるとか、学校に調整する場がないと難しいだろうとも考えています。職員室は狭いとか様々な状況の中で、もしかすると副校長等事務補助の方が担っていただける、今も地域コーディネーターと兼ねていらっしゃるような方もいらっしゃると思いますので、そういうところも含めて今後考えることができるのではないかなと思っております。

以上です。

【委員長】

ありがとうございます。

今のお話で、いい説明をいただいているんですけど、個人的にちょっとわかりにくかったのは、副校長等事務補助というのは具体的に1日何時間ぐらい勤務していて、週何時間とか、常勤なのかとか、ちょっとその辺を教えてくださいませんか。

【指導課長】

現在、副校長等事務補助、各校1名、これは都の補助も受けまして、スクール・サポート・スタッフという形で入っております。週20時間の勤務ということで入っていただいているところがございます。

先ほど委員からのご質問にお答えが漏れてしまったところがあるんですが、地域コーディネーターをサポートとすると、開かれた学校づくり協議会の中でまた委員がいて、同じ委員だけれども、そこで上下の関係があるという、それは今ご指摘のとおりだなと思っております。サポーターという言葉がいいのか悪いのか。ただ、地域コーディネーターはお一人だけじゃなくて、チームで対応するというのをイメージしておりますので、この辺についても、また各校それぞれのご事情等もあると思います。そこについては、今後、様々なモデルが出てきてもいいかなというふうに思っておりますので、ご協議いただければと思っております。

以上です。

【委員長】

そうですね。実際に動き始めていくと、学校規模であるとか、あるいは小中の区別とか、地域の実情だとか、言ってみれば、子どもの数の大小とか、かなり違ってくるのかなという気はしますね。そういう意味では、今、こういう仕組みについて動き出す検討をしているわけですけど、ゆくゆくは、基本ができてきたら、さらに協議会を回していく、言葉がいいかどうかわかりませんが、運営マニュアルというか、指針みたいなものがないと、ちょっと動きにくいかなという気はしますね。そういう意味で、指針なんかがあるとしたら、今、ご指摘いただいたようなことにも配慮しながら、それを実際に回していくときに地域の方や、それから、校長先生方も何年かに一遍ずつ変わっていきますので、やり方がわかってくるだろうと思うんですね。そういうふうなことをイメージしながら、資料1-1と1-2の中身を詰めていけるんじゃないかなと思いました。非常にいいご指摘をいただいております、うれしく思っているところでございます。

委員の全員の皆さんから疑問点があったら伺いたないので、ぜひ積極的にお願いいたします。

【委員】

開かれた学校づくり協議会なんですけれども、こちらのほう、私、多分、一番長くかかわっているんじゃないかなと思うんですけれども、校長先生が多分ほかのメンバーの方を見つけだしてきて、声かけをされていると思うんですけれども、変わらない地区は全然変わっていません。しょっちゅう変わっているところもありますし、あと、保護者の方がすごくたくさん入っている地区もあれば、私が今かかわっている地区では保護者は1人しかいません。現在小学生がいらっしゃるという方は1人で、あとは私と似たような年代か、もっと上の方もいらっしゃいますし。なので、すごく偏りがあるんじゃないかなと考えています。

開かれた学校づくり協議会の代表者の会議というのもあるんですけれども、こちらのほうも、行くとほとんど似たようなメンバーばかりなので、毎回同じようなメンバーが毎年毎年代表をやっている状況なので、それでは全然、話がいつも同じなんじゃないかなとちょっと不安になることがあります。逆に話が通じていいときもありますけれども、同じ人ばかりでいいのかなというところがちょっと不安です。

あと、保護者の方が少ないというのと、地域でも企業の方とか外部の方が入っていらっしゃって、その地域に住んではいないけれども会社をやっていらっしゃる方というのが、また違った方向で意見を言われて、参考にはなるんですけれども、全然その地域にはそぐわな

い、会社会的な、ビジネス的なお話なので、私が聞いていても全然頭に入ってこないような話なので、本当にそういう方が必要なのかなとか逆に疑問に思ったりするときもあります。なので、こちらの協議会のメンバーの多分いろんな決まりがあるとは思うんですけども、そこが本当に活用されているのかどうかというのは、もう一度振り返って確認すべきじゃないかなと考えております。

以上です。

【委員長】

ありがとうございます。

今、委員がおっしゃったとおり、進んでいくと、いろいろそごも出てきたりする。そのときに、基本に戻るということが大事だったりすることがあると思うんですね。今のお話のように、同じ人がなってもすごく難しいだろうし、また、全然違う企業の方が来ると困る部分もある。ただ、発想のチェンジという点ではいい点もあるような気もするんですね。非常に貴重な意見をいただきました。ありがとうございます。

どうぞ、ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。

オンラインの方、いかがですか。

【委員】

3点質問があります。1点目は、開かれた学校づくり協議会が学校の外出しというお話だったかと思うんですけど、外出しとなった協議会の方が、資料1-2の図にあるように、青少協とか自主防災組織とか福祉の会とか、民生委員さんとかそういった選出団体から委員の方を協議会のメンバーに入ってくださいねという、そういう呼びかけを誰がするのか。それが事務局なのか、委員長なのかというところがどういうイメージなのかというのが1点目になります。

2点目は、ちょっとそれにもつながるんですけど、協議会の事務局機能の方の話と委員長は別なのか、一緒なのかと、それと地域コーディネーターの方が委員長を兼ねるのか、事務局を兼ねるのかというところが2点目の質問です。

3点目は、これまでの議論の中でも意見が出ていたように、学校に得意なことで協力できる人はいませんかみたいな、そういう誘い方をするのは、必ずしも開かれた学校づくり協議会のメンバーだけじゃなくて、広くそのエリアの市民の方に呼びかけるようなイメージなのか、その辺がちょっとお聞きしたいなと思います。

以上になります。よろしく申し上げます。

【委員長】

呼びかけはだれなのかとか、あるいは事務局の構成とか、広く呼びかけられたのかとか、もしどなたかお答えになれば、どうでしょうか。

こんな考え方があるよという今のご質問に対して、これはこんな考え方があるんじゃないかということがあったら、委員の皆さん、どうぞ。ほかの委員の皆さん、話があるんじゃないかなというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

【委員】

部分的なお答えになって恐縮なんですけれども、協力者というのは、例えば、私、今、PTA会長をやっていますけど、350人からの保護者の職業とか、特技とか、当然知っているわけがないので、協力者のキャラクターを集約するようなリストみたいなものをつくっておいて、それをプールしておく必要があるのかなと思いました。それについては、恐らく学校側があらかじめ、例えばゲストティーチャーを強化したいとか、そういう思惑があって、それに基づいてリストをつくるみたいな、そのリストの中に、例えばここでいうと、地域コーディネーターのサポーターにPTAの人が代表で入って、PTAの代表の人がリストに基づいてお願いするみたいな、そういう形がPTAの関わりとしてはできるかなと聞いていて思いました。

【委員長】

なるほど。イメージがわいてきました。ありがとうございます。何かプールしておくといんじゃないかということですよ。

【委員】

私自身PTA役員などをやったことがなかったので、開かれた学校づくり協議会というものの存在とか、動かし方とか、そういうものを全く知りませんでした。多分、学校に子どもを通わせている親の間でもこれがどういうものかということすら、あまりよく知られていないのかもしれないかなと思いました。先ほどの委員がお話された保護者が1人しか入っていない学校というのは、私の子どもが通っている学校でもありますが、親が1人しか入っていないということも今、初めて知りました。学校のことについて、教育について話をしているのに親がいないということに今、ちょっと驚きましたけれども、でも、そもそも、このように新しくイメージとか協議会自体を考え直しているという会議がある時点で、あるいは何かができ上がったところで、また新しい世代の人に対するアピールができるとか、そういうタイミングにはなるのかもしれないなと思っています。既存のものはよくわからな

いんですけれども、何かおもしろいものができるのではないかなというふうには思うので、開かれた学校づくり協議会というものに入ってくる人たちもちょっと変わってくる可能性があるかなと思いました。

【委員長】

ありがとうございます。そうですね。今、ご指摘してくださいましたように、新しい発想というか、客観的な見方という、別な言葉を使うと、俯瞰的な見方をしていくような動きが期待できるわけですね。そういう意味では、中立公平であったり、あるいは広く社会を見通していくとか、そういうふうな機能が今まで以上にできるというふうには期待ができるわけですね。そういう意味で、今までの協議をまとめて、「共有」とか「促進」とか「つなぐ」というキーワードがありますけど、こういうのは何かといたら、ある意味では現状を踏まえた中で、未来思考型の組織としていくという考え方が僕はあるように思うんですね。そのあたり、皆さんとこれから議論することになるだろうと思うんですけども、今、委員からのご質問にお答えいただきました。いかがですか。皆さんからご意見をいただきましたけど。

【委員】

開かれた学校づくり協議会のメンバーというのが、小中合わせて18校ばらばらでいいのか、そろえるのか、基本的な構成はこんなイメージですよというのがあって、各学校ばらばらで、この学校は民生委員さんが入っているけど、こっちは入っていないとか、その辺は全市で統一するのかなのかなというのを最後にお聞きできればと思います。お願いします。

【委員長】

今の質問についての見通し、何かございますか。指導課長、何かあったら、どうぞ。

【指導課長】

今、たまたま民生委員のお名前が出ましたけれども、民生委員の方が入っていらっしゃる場所は、18校中13校というようなところで、それぞれ入っているところ、入っていないところがあります。ですが、必ずしもこの人たちじゃなきゃだめというような決め方ではないほうがいいかなと思います。それは地域の実情に応じたりとか、様々新しい風を入れていく、先ほど委員からも話がありましたように、そういうような考え方で固まっていけないためには、あまり固定はしないほうがよろしいのかな。それが役割みたいな形であるというのは、これまでの協議とはちょっと違って来るかなというふうに思っております。

だれが委員を選出するのかというところでは、校長先生からのご推薦をいただいて、教育委員会が任命するという形を考えておりますけれども、そこの中の選出方法についても、それぞれの中で決めていくのか、先ほど委員長から指針というお話がありましたけれども、今回のご報告をいただいたところで、事務局としても指針としてこういうような決め方がいいのではないかと、あと、メンバーが固定しないようには、任期であるとかということも必要になってくると。今後、またこれはご協議いただきたいなどは思っています。現在は1年ごとに開かれた学校づくり協議会の推薦はいただいているところなんですけど、ずっと同じ方をお願いしているというところもあります。今回のご協議をいただいて、また選出の方法についてということは示していければなというふうに思っております。

あと、事務局が委員長を兼ねるのかというような、ご質問がありましたけれども、今のところ、事務局の想定としては、委員長は別の方ということで、事務局は地域コーディネーターを含めて、何人かの方でチームをとることを今、想定はしております。ここについても、委員の皆様からご意見いただければと思っております。

【委員長】

ありがとうございます。

今、そういうことで質問に答えられていましたけれども、ほかの質問とか何かございますでしょうか。

【委員】

質問は、資料1-2のところなんですけれども、右下にある現状の開かれた学校づくり協議会の中に学校評議員機能と地域学校協働本部機能と2つの機能があるんですけども、これがイメージ(案)になったときに、この2つの機能はどういうふうに再構成されるイメージなのか。例えば学校評議員制度はもう要らないのか、そのあたりがよくわからないんですけども、この2つの機能はどういうふうに集約されるのか、分解されるのか、どういう構成でこういうイメージ図になるのか、そこを質問したいと思います。

【委員長】

現状のところとイメージ(案)のところですね。その点はどうですか。事務局のほうでお願いします。

【指導課長】

現在、開かれた学校づくり協議会は、今、委員お話しのとおり、学校評議員機能と地域学校協働本部機能という形で位置付けております。地域学校協働本部機能というのは、現在は

地域コーディネーターの方が主に担っている部分です。今回、多様な参画を促進する機能として、地域学校協働本部機能は教科する機能としてイメージしております。

また、ポイント①の「共有」の学校・家庭・地域が目標を共有する機能、これは学校運営協議会機能を活用しようと思っておりますので、学校運営協議会機能と地域学校協働本部機能を、強化するイメージに位置付けております。現在の学校評議員機能につきましては、学校運営協議会機能を入れることによって、特に必要ではなくなりますので、今回、学校運営協議会機能となるようなポイント①の部分を強化するイメージとして提案をさせていただいております。

【委員長】

わかりやすく説明してくれましたけど、よろしいでしょうか。ありがとうございました。
ほかにご質問とかございますでしょうか。

【委員】

先ほど民生委員の名前が出ましたので、私も中学校と小学校にちょっとずつかかわったことがあります。民生委員として、任期が3年なので、そのときにかかわって、メンバーはどんどん変わっていきました。それは要請があったわけではなくて、やっぱりいろんな人がかかわったほうがいいからということで、自分たちで任期を決めて変えました。小学校も現在はそうしています。

開かれた学校づくり協議会が始まったときに、校長先生の推薦ということで、皆さん、一生懸命かかわっておられましたけれども、1回そうやって委嘱されると、なかなか変わるということがなくて、周りでは変わったほうがいいのかなとか思っても、ご自分が変える意思がなければ変わっていかなかったんですね。なぜかという、校長先生も変わられてわからないから、そのまま、じゃ、お願いしますという体制でどんどんいってしまうわけです。

ですから、ある程度、自分の意思もあって、それから、周りからの要望もある組織というのは、どこかで変わっていかなければ、みんなが困るということになってしまいますので、こういう組織になったら、また考え方が違って、そういうことはなくなると思いますけれども、いろんな意見を聞くということは大事なことはないかなとは思っています。

【委員長】

今、すごく大事な考え方をいただきました。不易と流行なんていう言葉もあるんですけども、こだわっちゃいけない部分もあるし、ある面では、新しいことでチェンジして行って、変えていくということですよ。そういうので非常に大事な指摘をいただきました。ありが

とうございます。

【委員】

資料1-1で、ポイント①「共有」の黒ボツの2つ目のところに、「責任と権限」という言葉があるのですが、その辺をもう一度説明していただいてもよろしいでしょうか。

【委員長】

どうでしょうか。行政の方からよろしいですか。

【委員】

学校運営協議会の中で、これは制度上の権限ということになりますが、地教行法というところで決められているのが大きく3つございまして、校長が作成する学校運営の基本方針を承認することというのと、2つ目が学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べるができること、それから、教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができるというのが学校運営協議会という制度上の権限であり、権限を持つということが一定の責任を持つという意味合いになるということで、この制度を活用することで権限と責任を共有するとか、それこそ子どもたちの学び・育ちを支えるという1つの目標を学校・家庭・地域で一緒に持つためにそのような仕組みにするというような形かと思っております。

【委員長】

じゃ、どうぞ。

【委員】

お話しいただいたことは、庁内検討会議の報告書に、「学校運営協議会とは」という内容でポイントが3つ書いてあったので、そのことは理解していました。ただ、そのところを明確にしていかないと、今後、様々なことが出てくると思ったものですから、確認をさせていただきました。

【委員長】

法的な部分を含むところですのでごく大事なところの確認がありました。うれしく思うところです。ありがとうございました。承認と意見と人事上の部分ですね。非常にいい制度のことを話していただきました。

ほかに質問とかご意見はございますでしょうか。

そうしたら、質問が終わったというか、まだあったら後でおっしゃっていただいて結構なんですけれども、資料1-1、1-2をご覧ください、きょうが今年度最後ですので、次

年度は5月にあるわけですがけれども、そこに向けて引き継ぐ意味でも、今、これを見て、やっぱりこういう点が問題点なんじゃないかとか、あるいはこういうふうに思っているとか、ここら辺はいいんじゃないかとか、今までの我々の会議、きょうを含めて4回の会議を振り返って、委員の皆さんから、これは全員にお願いしたいと思っているんですけど、いろいろおっしゃっていただいて、その後でまた学識の委員にご助言もいただきながらまとめてまいりたいというふうに思っておりますので、よろしいでしょうか。

それでは、地域の方からPTAの順でお話を伺って、その後に学校関係の委員、行政の委員、最後に、学識委員からお話を伺うと、そんな形で進めようと思っておりますが、よろしいでしょうか。途中で何かあったら、またおっしゃっていただいても結構ですので、忌憚のないご意見をいただければというふうに思っております。

では、お願いいたします。

【委員】

指導課の方々、これまで3回にわたって、好き放題なところをまとめていただいて、本当に感謝しております。イメージしたとおりになっているかと思えます。

恐らく細かいところは、今後、我々この会議で決めていくということで、まだ指導課の方々も決まっていないと思うので、来年度以降、我々の中で細かいところはしっかり決めていけばいいのかなというふうに私は認識しております。

これを見て、一番ポイントになるのは、開かれた学校づくり協議会のだ真ん中のところ、ここに人がどれだけ集まるかというところが一番のポイントだと思っております。ここに人が集まるか集まらないかで、これが成功するか失敗するかも決まるというところだと思っていて、この協議会が人たらしな会議体というんですか、人が集まる会議体になるための何かポイントを一つつくりないと、今の開かれた学校づくり協議会も各団体の長とか、いわゆる充て職で来たとか、そういう形で、自分から主体的に行く、もともと主体的な方がやっているんで、主体的な方が結構多いとは思っています。ただ、主体的に関わるには、自分がこうしたいと責任を持ってやることで、達成感とか楽しさというのは味わえると思うので、そういうものが味わえて、楽しい、人が集まるような協議体になるような仕組みをこのイメージ(案)に入れたいなというふうに私は思っています。ただ、その回答は私はいまだにないんですけど、皆さんと一緒に話し合って、ここに人が集まるための仕組みを追加していけたらと思っております。

以上です。

【委員長】

ありがとうございます。非常に基本的で大事なことですよね。やっぱり人が集まって、温かい雰囲気でないとは続かない。今までの協議の中でも信頼という言葉が私は結構使われていたと思うんですね。非常にいいご指摘をいただきました。ありがとうございます。

では、次の委員、お願いいたします。

【委員】

私は、開かれた学校づくり協議会にどれだけの委員が、今までは役割として長が入っていて、それはどんどん運営はされてきましたけど、これからもっともっとイメージづくりをしていくためには、どういう人材が必要かとか、選ばれたというよりも、自分でも進んで参加できるような協議会になったらいいと思いますけれども、今現在、いろんな組織の中で本当に手を挙げる方が少なくなっているの、どこまで参加してくださるのかということがすごく心配にもなります。この図で見ると、地域コーディネーター、私は本当に大事な方だと思っていますので、その方からの推薦とか、いろいろな人材を広めていって、この協議会に生かしていただけたらいいなと思っています。

【委員長】

ありがとうございます。人材のことですね。今の委員の話聞いて、思い出したんですけど、ここ10年ぐらいで、参加するとかそういうこと以上に、参画という言葉がずっといろんなところで使うようになった気がするんですけど、自分で新しいものに関わっていく。これは、少子化時代に、言葉に差し障りがあるかもしれませんが、年齢構成としては高齢の方が多いですよね。子どもたちが少ない時代になっていますので、大人の社会で子どもをどうやって守って、サポートしていったり、あるいは目覚めていくかというときに、参画という、意欲的にかかわっていかないと、なかなか組織は動かないというところがある気がしますので、参画していって、人が集まるのをどういうふうにつくるか、魅力あるものにしていくのかというのがかぎじゃないかなというふうに、今の委員の話をもつて思ったところです。

ちょっと余計なコメントを申し上げて恐縮です。非常に賛同できる意見でした。ありがとうございます。

【委員】

地域から関わりたいという人は多いと思うんです。なので、そちらのほうはとりあえず頭数は大丈夫だと思うんですけども、家庭の方たち、現役の保護者を協力するところに連れ

出すということがすごく難しいと思うので、PTAの役員をされている方じゃない方たちというのは、多分、全然興味がなくて聞こえないふりをしているのか、見ないふりをしているのかわかりませんが、そういう方たちもちょっと興味を持ってもらえるように進めていけたらいいなと思っております。

【委員長】

とりわけ保護者の方、非常に忙しいということがあるかもしれませんが、私は、ちょっと言葉が適切かどうか、こういう組織、内的な関わりとか、言ってみれば、子どもが安心して学校に通えるような家庭をつくるというか、温かい気持ちでつくと、子どもは意欲的になりますよね。僕は、子どもが学校に来て、楽しい学校生活を過ごすというのも、家庭の大事な参加でもあるし、協力だと思うんですね。そういう関わり方も各家庭にあるんじゃないかという気がいたします。

非常にいい意見をいただきました。ありがとうございます。

【委員】

私は、この会議に参加していることを関前南小学校の校長先生、副校長先生と意見交換するんですけど、この会議が実際にある結論に達したとして、関前南でどんなことができるんだろうとかという話をするんです。その中で、私は割と前のめりに議論するので、それで気になったところということとしてお聞きいただきたいんですけども、このイメージ(案)の中でいうと、多様な参画を促進するというので、今、学校側にどんなことを地域・家庭にお願いしたいですかというところがそれほど出てこないというのが現状にありました。なので、このイメージを実際にワークさせるためには、学校側がいかに地域の力を頼る機運を盛り上げるかみたいなのが今まで出ていない中では一つかぎになるのかなというように思いました。

以上です。

【委員長】

そうですね。PRの仕方と、今の協議をイメージ(案)ではどうやってみんなにわかってもらおうかというのはすごい大事な指摘だと思うんです。

【委員】

学校運営協議会という組織が、学校についての基本方針を承認するとか、意見を述べるとか、自分たちの考えを実際に具体化できるかもしれないなどといった、物事や社会までいかないですけど、変えたり意見したりということが、ただの保護者とかただの地域の人でもで

きるかもしれないというモチベーションになると思えば、今までのように、ただやらされていた役員とか、参加させられていた会議とかいうものとは違う気持ちで参加したい人が出てくるのではないか。それは学校と地域と家庭との協力という前提ですけれども、大人が子どもたちのために個々に思っていることを表現できたり、具体化できる社会だということを見せていくというか、そういうことのきっかけになる市民活動かなと思いますので、いいと思います。

【委員長】

そうですね。今、すごくいい言葉を聞いて、皆さんもそうだと思うんですけど、子どもたちのためにどういうふうに私たち社会がそれぞれの役割で動けばいいかという基本の考え方を今、教えていただいた気がします。非常にいいご指摘いただきまして、ありがとうございます。

【委員】

開かれた学校づくり協議会の事務局機能のところ、事務局機能を担う人が住民の人なのか、仕事として雇われる要素が強い人がいいのかどうかは、先ほど地域コーディネーターのお話も出ていたので、その辺は地域住民の方にご意見を聞いてみたいなと思いました。

あと、もう一点は、今、皆さんからもお話が出ていたように、楽しいとか参画したいと思わせる開かれた学校づくり協議会という名前そのものをもうちょっと、横文字にするのか何かわからないんですけど、変える余地があるのであれば、そういう名前のところからでも楽しそうなイメージのものに変える可能性はあるのかなというふうに思いました。

あと、これから、令和5年度にモデル事業を実施するので、ちょっとやってみたいなと思ったのは、公募委員みたいな形で、ぜひ自分の住んでいるまちの学校にかかわってみたい、子どもが大好きだからかかわってみたいな方を公募してもらうようなのを一回モデル事業でやってみて、市民の方のリアクションや、あとはPTAをやっていないような保護者の方がどのくらい申し込んでもらえるのかとか、あと、大学生とか20代の方とかも申し込んでくれるのかどうかみたいな、ちょっとそういうのも試しにモデル事業でやってみたらいいのかなと思いました。

【委員長】

具体的ないいアイデア、ありがとうございます。

今の件で皆さん、特に地域コミュニティの方、何か反応ございますか。こういうアイデアがあるんじゃないかとか。どうでしょうか。機能の問題とか、具体的に横文字の名前がいい

じゃないとか、公募の仕方とかありましたけど、アイデアがありましたらどうぞ。

【委員】

お酒を飲みながらじゃないと出てこないですね。

【委員長】

具体的には名前なんかは、横文字でアイデアはございますか。

【委員】

ごめんなさい。今すぐはないんですけど、協議会とかそういうのは、やっぱりお若い人は、自分が参加していい会議じゃないんだと思ってしまうというご意見は多いので、協議会じゃない、プロジェクトチームのような、楽しそうなイメージのものの方がいいのかなと思います。

【委員長】

なるほど。ここらあたり、何かおもしろいアイデアが、それぞれの地域とかがこういうことに出てきそうな気がしますね。非常に楽しみだなという気がいたしますけど、場合によっては、ネーミングのコンクールみたいなものをやるとおもしろいのかもしれないと思いがらお聞きしたところでした。

それから、大学生を活用するとか、公募の仕方とか、いろんな工夫があるような気がしますね。非常にいい提案をいただきまして、ありがとうございました。

【委員】

今のご意見、すごくおもしろいなと思いました。それから、楽しいというのがあったんですけど、楽しいこと以外に、負担感をなくすのは無理でも、負担感をあまり感じない、そういう場であってほしいなと思うんです。例えば、会議の時間帯、もちろんこういう設定も難しいとは思いますが、例えば夕方はどうしても出られないので、時間帯もいろいろ変えるような会議であると、すごく出やすいかなと思いました。

あとは、私もこの会議に参加して、いろんなご意見を聞いて、学校の様子がよくわかったりとか、とても自分のためにもなりました。今後ももうちょっと資料を読み込んで、いろんな意見が言えたらと思います。

【委員長】

ありがとうございます。そうですね。楽しいということ、負担感を感じさせないように、前向きにとらえていくということがあって、一つ、開催の仕方というのは、今、こういう時間帯なんですけど、場合によっては、コロナの対応で学ぶわけですけども、ある意味ではこ

れからはオンラインというのを常時化させていいのかもしれないという気がしますね。そうすると、いろんな時間帯が工夫できたり、あるいは場所的な問題もクリアできるかなという気がします。そういう意味では、今、委員がおっしゃったように、いろんな工夫はしながら、楽しさと負担感を調和できるような会議運営というのができそうな気がしますね。

【委員】

今、いろいろな話を聞きながら、私もずっと考えていたのですが、まず、これは子どもの学びとか育ちをみんなで盛り上げていこうよという趣旨でいいですよ。ただ、今まで開かれた学校づくり協議会というのは、右下のように、学校の中で、例えば校長先生から推薦していただいて、私のような者がいろいろな委員候補に電話をかけたりして承認を得ていたものを、全て運営母体は学校から離れるという考えでよろしいのですか。そして、人選は、教員、例えば校長や副校長じゃなくて、委員に推薦された人が選ぶのでしょうか。

先ほど人材の話が出ていたので思うのですが、企業の人とか学生とか、いろいろな人がいろいろな意見を言うというのはいいと思うんですよ。私の場合は中学生に関してですが、中学生がターゲットで、生徒の学びについて考えていろいろなことをやるにはどうしたらいいのかという話し合いをするのに、いろいろな立場や視点があるのは、実現できるかどうかはともかくユニークな発想が生まれるのでとてもいいと思うんですよ。だけど、その人材を選ぶのを、また副校長がやるのではなくて、運営母体である人たちがやるのが気になる場所ですね。つまり、違う1つの母体がここにでき上がってくるのかなというふうに想像しているのですが、それで間違いないのか知りたい場所ですね。そして、それにより先ほど言った事務の担い手が、例えば私の学校の地域の方々の中から、仕事として事務局ができて、カタカナや英語の名前がついたりして、でき上がってくるのかなというふうにしか今、イメージができていないんですよ。そして、そのイメージが間違っていなければ、次に考えられることは、その運営に関わる費用やそこに誰が参画するのかなんですよ。学校側からは管理職だけなのか、前に先生方と話をしたという意見も出ていたので、もしそこに今度は、これは負担増になると思うんですけど、学校の先生の中に開かれた学校づくり協議会の委員をまた選出しなくちゃいけないのかとか、いい面もあるのかもしれないけど、どうなるのかなという不安もあります。今後は、そのあたりを話し合っていければなと思っております。よろしくお願いします。

【委員長】

ありがとうございます。

イメージとしては、私は個人的には今、委員がおっしゃったイメージのような感じに受け取っているんですけども。余計なことをしゃべって恐縮なんですけど、多分、記憶のある方はここにいらっしゃるかわかりませんが、昭和の時代の終わりぐらいに、中曽根政権のときに臨教審というのがあったんですね。それに4次答申というのがあって、僕の記憶だと、昭和62年だったような気がするんですけど、そのころから開かれた学校というのはかなり言われていて、そのときにある研究者の人が提案した中に、学校ごとに教育委員会をつくるような発想でいいんじゃないかと。そういうふうにして、各学校で独自性を持って子どもたちの学ぶ場にしていくことが大事なんじゃないかという提案をした方がおります。それが今、我々がやっているところ、そのこととイコールじゃないんですけども、教育委員会という言葉は重いので、今は使いませんが、ある意味の外づけというか、客観的に、俯瞰的に見るような組織に少しずつつながっていくというイメージだと思うんですね。今、委員のお話を聞いて、そのとおりでなというふうに僕は思っています、今の学校、先生方、特に副校長先生方が負担に感じられているようなことがあれば、それをできるだけ取っていくという、そういう発想がすごく大事な気がするんですね。そうすると、発想のチェンジができてくるというふうに思います。

そういうふうに今、理解したところで、余計なことを申し上げましたが、すごく大事な指摘でありましたので、一気に進まないかもしれませんが、僕はかなりそういうイメージになっていくんじゃないかという気がするんですね。

ありがとうございました。すみません。余計なコメントをしました。

【委員】

まず総論的なところで、今回の委員会を通して、学校という場所は子どもにとってどれだけのいい場所になっていくかというときに、地域の力というのは本当に大きいなというふうに思っております、ともどもにつくっていくという形の新しい開かれた学校づくり協議会、名前は別として、そういった形になってほしいなというふうに思っております。

そうなったときに、かたいところで2つあって、先ほど委員のほうから、学校運営協議会としての責任と権限というところの話がありましたけども、それをやっていって、教育課程届とかの意見を述べたり承認をするという作業があったりとか、教職員の任用に関する意見というところがあると。そういったところをつくっていくということですよね。つくっていくのに一緒にやっていくんだと思うんですけど、ポイントには「共有」となっているんですよ。「共有」じゃないよと思うんですよ。何かちょっとずれていないかなというか、

ちょっとお茶を濁しているんじゃないのかなというふうに思って、かたい言葉で、先ほど話が参画とかそういったところになってくると思いますし、つくっていくという意味合いだと、例えば「共創」とか、そういった言葉じゃないのかなというふうに思うんですね。そうしないと、やろうとしていることは、学校と一緒にやっていきましょうよと言っているんだけど、ポイントは「共有」ですよと言われると、少しずれちゃっていないのかなというふうに話を伺っていて感じましたというのが1つ目です。

学校として、今度、2つ目なんですけれども、教育課程届を今、まさに1月、2月かけて、学校評価を踏まえて編成する作業が入ってくるわけですけれども、そこに開かれた学校づくり協議会で意見をいただいて、承認をいただくということになると、スケジュール感もまた考えなきゃいけないのかなというふうに思います。学校で教育課程を編成していくうえで市教育委員会からもいろいろと方針が示されて、それを踏まえて学校はつくっていくということもありますし、そういった全体的なスケジュールということを学校単体だけじゃなくて、市全体として見直していかなくちゃいけないのかなというところが2つ目、感じたところです。

今、2つはかたい話で感じたところで、最後1つが、さっきの委員の意見に頭をガツンとなぐられたようなところがありまして、公募というのは難しいところもあるのかもしれないんですけども、若い力を入れていくというところ、何でその発想が僕はなかったんだろうなというところで、自分の頭が相当固くなったんだなということを反省したんですけども、多様性ということが今は非常に求められている、そして、若い力ということを地域にどんどん生かしていきたいというときに、若い力の取り入れ方、本校なんかも、卒業生がすごく青少年協なんかで活躍して、リーダーとして頑張っているというところもありますし、卒業生がそのまま組織体に入るかどうかとか、そういったところはまた議論していただければいいと思うんですけども、若い力をどのようにして学校の中に入れていくかということもまた考えていかなくちゃいけないんだなということを考えさせていただいただけでも、私はきょう来た意味があったなと。私個人としては、大変勉強になりました。多様な意見をいただけるこういった委員会というのは非常に大事なんだということを改めて感じました。

【委員長】

ありがとうございます。来ていただいてよかったと非常にうれしく思っています。

1つ、共有というところが、今の委員の話を聞いて、私、共有じゃ、ひよっとしたら消極的なのかなという気もしましたね。もうちょっと積極的な言葉があってもいいかもしれない

いという気がいたしました。参画とか共創とか、何かいい言葉があるといいかなという気がしました。

スケジュール感、これはいろんな機関、組織という意味では、重ならないということの意味では大事な提案だろうというふうに思います。

若い力というところはすごく大事なところで、ある意味で、青年部みたいな、支える部分みたいなというか、そういうのも一つ発展的にはできていく可能性がありますよね。若い力というのはすごく大事な気がします。僕も学生たちとつき合っていますけども、学生たちは非常にやる気があるんですね。地域に参画したい、そういう気持ちを持っている学生が多いので、これはいいアイデアだなと思って伺いました。

【委員】

この委員会に参加させていただいて、皆さんと次代を担う子どもたちを育むためには、地域と家庭と学校が協力する必要があることをつくづく感じたところです。そして、事務局の資料1-2にあるように、現状の学校評議員という制度から、イメージ図をつくりながら、皆さんの話があったように、子どもの学びだとか育ちを皆でつくっていくことはすばらしいことだと思っています。

特に今回示していただいた中で、例えば資料1-2のポイント③の「つなぐ」というところは、学校のニーズと地域の強みをつなぐ機能が充実すると、学校としてはありがたいと思っています。

ただ、こういうすばらしい組織ができた一方、組織だけで動けるものではありませんから、その機能を維持していく必要があります。そのためには、先ほど皆さんがおっしゃられていた事務局の機能をどのようにつくっていくとか、負担感をどのように減らしていくかなど、整理していくことが大切です。先ほどの質問にあった権限とか、学校運営協議会に移行する部分も明確にしていますので、それをどうしていくかということも出てくるのかもしれませんが。

いずれにしても、皆さんと一緒に、武蔵野市に住む子どもたちを育成するためには、こういう組織が必要で、そういう体制をしっかりとつくっていく、そんなことをこの図を見ながら感じました。皆さんと意見を重ねながら、さらによいものをつくっていったらと思います。

【委員長】

ありがとうございます。

今まで我々の作業というか、非常に評価していただいて、前向きなご意見をいただきました、ありがとうございます。

【委員】

大きく4つのことを申し上げたいなというふうに思います。

まず、皆さんのご意見を伺っていて、こういう開かれた、あるいはそのバージョンアップ版の組織というのは、いろんなイメージがあると思いますし、全国にいろんな形態がありますので、そのところを十分つかめないままに、いろいろ意見を言うことはいいことなんだけれども、最初はすごく肝心だろうなと思うんですね。例えば、先ほど委員がおっしゃたことはとても大事で、共有なのか、それとも参画なのかというのは、実は決定的に違うんじゃないのかなと思っています。なので、そこをもうちょっとシェイプアップしていく必要はあり、当然、マニュアルというのかな、手引きみたいなものはつくっていくことになると思うんですけども、そこも様々な視点から見ていかなきゃいけないなということを感じました。

それから、2つ目は、では、いわゆる開かれた学校づくり協議会協議会のバージョンアップ版の活動をどのようにチェックするのかなということを考えています。全国の様々な、例えばコミュニティスクールだとかというの、いろいろな面があります。一般的にいて、地域の方あるいは保護者の方からの学校運営等に関する理解は結構進む、あるいはコミュニケーションがとれるようになったという話はよくあると思うんです。そのかわり、校長、副校長あるいは主幹クラスが本当に疲弊しているという、スムーズな運営あるいは本当に理解してもらうために、教育活動以上にそちらのほうに重点がいつてしまっているとまでは言いませんが、かなり事務的な部分でも厳しい状況があるというのは実例としてはあります。

例えば、極端な話、中学校なんかの部活動は非常に切実な問題です。これは保護者にとっても切実だし、学校にとっても切実な問題ですよ。本当にぎりぎりの状況の中で部活動を指導している教員がいたり、あるいはやりたくてもやれない教員がいたりという中で、でも、一般的に保護者からすれば、もっと部活動をふやしてほしいということもあるんだろうと思うんですよ、学校規模によって状況も違いますし。けれども、それが協議会の中で、結局、最終的に学校が無理をしてひねり出すような形になるのであれば、何のためなのかなという話になってしまうと思うんですね。ですから、そういうふうにならないための仕組みというの必要です、その仕組みの一つは、会そのものが果たして健全な状況で運営されて

いるのかどうかというチェックを当然自分たちもやるんだと思うんですけども、どんな形でやるのかなというのは、そういう仕組みが自分の頭の中に浮かばなかったので、そこは考えていく必要はあるのかなというふうに思いました。

3つ目が、できるだけ大きな枠組みといいますか、基本的な考え方あるいは仕組み、人員のある程度の人数ですとか、そういうのは決まると思うんですけど、ただ、学校によってどのような形態をとるのかとか、例えばその中に組織が多分出てくると思うんですね。例えばうちの学校で今考えたのは、開かれた学校づくり協議会の人を3つぐらいの部会に分けて、教育活動支援の部会、それから、学校としては、広報をすごくしたいんだけど、なかなか協議会でのマンパワーじゃ厳しいとかいうところもあって、広報、もう一つは、保護者と地域のコミュニケーションをとっていくような、そういう仲立ちをするような部、この3つでやったらいいかななんて勝手に思っていたんですね。私の学校である境南小だったら、今のここがぱっと浮かんだ。だけど、ほかの学校は全然違う組織を考えるかもしれない。要するに課題が違うわけですね。なので、そういうところを柔軟にしてほしいなというふうに思いますし、予算なんかも、人の予算と物の予算というのはバーターでできるものではないのかもしれないかもしれませんが、こういうことにこれだけ使いたいから、こういう予算をくださいなみたいな形になっていくといいのかなというふうに私は個人的には思っています。

そして、最後なんですけれども、皆さんの様々な視点からの意見というのは、僕もすごい参考になりました。今のうちの開かれた学校づくり協議会にも生かしていけるなと思いましたけれども、全国、近隣のところにもいろいろな組織がありますので、実際、法律に基づいてやっているところとか、あるいはそうじゃないんだけど、武蔵野が目指したらいいんじゃないかと思っているようなところとか、ぜひ実際にそこに行って会議の様子を見るときか、先生方や地域の方、保護者の方のお話を伺うような機会がつかっていただけたらありがたいなと。やっぱり机の上で考えていても、実感としてわからない部分がありますので、私はぜひそういうのを体験したいななんていうことを思っております。

以上です。

【委員長】

ありがとうございます。

今、本質に触れるようなお話をいただきましたし、また、活動のチェックとか組織体制のこと。今、お話あったように、そうですね、なるほどなど、いろんなコミュニティの組織をつくっているようなところを見学に行くとか、この委員会を別なところでやるというのも

1つの発想かもしれませんね。非常にいいアイデアをいただきまして、今、コロナの状況で難しいかもしれませんが、僕は非常に大事な指摘だという気がしますね。何かやっているところ、他の違った価値観を学ぶという意味ですごく示唆のある意見をいただきまして、ありがとうございました。

【委員】

まず、議論の中で、資料1-1には書いてあるんですけども、ポイント①の「共有」、言葉のところは議論がありますので、ちょっと置いておいて、「学校・家庭・地域が目標を共有する機能」とありますけれども、資料1-1のほうには、家庭・地域も学校運営の当事者になることが大事と書いてあるんです。ここの「共有」は、開かれた学校づくり協議会の中のメンバーだけが共有するのではなくて、家庭・地域というと、家庭は保護者の方ですし、地域もいろんな方々がいらっしゃるので、当事者をふやすというか、みんな当事者なんですけど、開かれた学校づくり協議会の方だけじゃない、そのほかの方たちも当事者になるという意識をどうやってつけるか、これは非常に大事な点。保護者も地域の方々も、自分たちが当事者で、学校をよくしていこう、子どもたちの学びや育ちを支えていこうというところを全体として共有できる、そういう仕掛けは必要なというのが1点あります。

もう一つは、下のところの「活動に関わる地域住民等」のところですね。これまでの議論を踏まえると、ここには企業であったり大学であったり、前回も同じようなお話をしましたけれども、部活を支えるような仕組みが必要だということになると、地域にある企業だったり大学だったりということもぜひ入れる必要があるかなということが2点目。

3点目は、先ほど事務局のほうから、この絵を見ると、なかなか子どもの存在が見えないという話があって、右上のところに絵を描いていただいているんですが、これは大人の中で子どもたちをどういうふうに支えていこうかという観点だと思うんですけど、一方で、子どもたち自身の意見をどうやって反映させていくのか。今、ほかのところの場で子どもの権利に関する条例の検討というのを進めている会議に参加もしていますが、子どもたち一人一人の声をどういうふうに入れていくかという議論をしているので、この中にも、実際に子どもたちの意見とか考えをどういうところで拾っていくのかということも含めて、それを踏まえて協議会の中でもどういうふうに進めていくかという仕組みというのもどこかに入れていただけると、非常にありがたいかなというふうに感じております。

以上です。

【委員長】

ありがとうございます。3点言ってくれましたけど、当事者の方と特に子どもの権利のことをおっしゃっていただきましたけれども、皆さんもご存じのように、児童の権利条約の中にいろんなことが書いてある、その中で一番大事なのは、僕が言うのも恐縮なんですけど、今の意見を聞いて思い出したんですけど、意見表明権というのが重視されているんですね。ですから、そういう意味では、大人がつくるというか、社会がつくるような組織に子どもたちをどうやってかかわらせるかということがすごく大事な視点でございます。

前回の委員会のおときでしたか、僕はちょっと見るができなかったんですけど、学校の研究発表会のおときに子どもたちが意見を言ったという話がありました。これらもすごく大事な機会で、実は去年、おとしでしたか、五中で生徒たちが発表していましたね。市長さんもいらして、おっしゃっていて、生徒たちがいいプレゼンテーションをするんですね。この力というのはすごく大事で、私は大学教育をやっていると、学生たちにその力をつけておけば、それがうまくできる学生というのは、大体就職活動がうまくいきます。卒論もうまく書きます。そういう筋書きがありますので、今おっしゃったように、子どもの意見表明権というのは、子どもの大事な権利の1つなんですね。これは最も重要だと思います。これをこういう中にどうやって組み立てるかというのは、すごく大事なところなので、これを我々会の中の中身として、それはある意味では、ここですと議論してきた中に、子どもにとってどういう社会が必要なのかという今、いろんな動きの中で、子どものウェルビーイングをどう育てるかというのが問いになっているわけですけど、そこにうんと近づくには、意見表明権とかそういうのをすごく大事にした組織であるかどうか、すごい大事なことだと思うんですね。

ちょっと余計なことを申し上げましたが、非常に大事な指摘を教えていただきました。ありがとうございます。

【委員】

先ほど委員からご指摘いただきました共有のところ、私も書かれている権限と責任を共有するということは、ご指摘を受けて、ちょっと言葉足らずだったのかなというふうに思いました。子どもの学びや育ちというのを学校と地域で一体的に、一緒に目的意識を持つために、権限を持つことで責任感を共有するという、そういうことだと思いますので、その表現で、ポイントの①として「共有」という言葉を使うことが適切なのか。一緒にやろうとしていることは、おっしゃるとおり、共創であったり参画ということだと思いますので、ちょっとその表現のところについては、事務局とともに考えさせていただきたいと思います。

責任と権限のところは、先ほどもあくまでも学校運営協議会という制度上のものであるという話をしましたけれども、決してこれはこの制度を入れるためのものではないということで、責任感を共有するための仕組みとしてこの機能を活用するということですので、その部分もしっかり理解した上で運用していく必要があると思います。

というのは、権限を持つことで、例えば学校と地域とで牽制し合うような形になってしまうと、全く逆のことになってしまいますので、そうならないように、ベースになるのは、あくまで信頼感というところになると思いますので、そのための仕組みをどうつくっていくかというところは、これまで皆様からご指摘いただいたとおり、すごく重要なことなのかなというふうに思っています。

今回は、私もずっと事務局と一緒に仕組みづくりを考えてきまして、あくまでも概念をベースにした図でご説明させていただいて、皆様から実務レベルでどう回していけばいいのかというご意見をいただきましたので、しっかりブラッシュアップしていきたいというふうに思っています。事務局のほうで想定しなかった様々なご指摘をいただいたというふうに思っています。

あと、この中で、教育委員会として新しい仕組みに左上の教育委員会と協議会の意見を反映することですとか、活動を支援するといったところも具体的にははっきりとは決まっておりませんが、新しい仕組みを行う上で、先ほどの人的な部分ですとか、あと、再三お話も出ていましたW i - F iの部分ですとか、必要な人にかかる予算、それから、物にかかる予算というところは教育委員会としましてもなるべく獲得できるよう、新しい仕組みに向けてやっていきたいと思えますし、また、ソフト的に指針をつくるというところは、がちがちに運用するわけでは決してないわけですが、一つガイドになるものが必要になってくると思いますので、その中で指針をつくる部分、それをもとに地域性というのは必ず出てくると思いますので、そこを発展させていけるようなところを教育委員会としてもしっかりと支えていきたいというふうに考えております。

【委員長】

我々が考えていくロードマップみたいなことも含めて、見通しのある話をいただきました。行政的な視点からポイントを押さえて教えていただいた気がします。ありがとうございました。

それでは、学識の委員から、今までのことを総括的にご意見いただければと思っています。

【委員】

もう十分過ぎる意見が出た後に、非常にまとめづらいんですけども、皆様のご意見を伺っていて、私は2つ提案したいと思いました。

資料1-2の図を見ながらになりますけれども、2つあるうちのまず1つ目は、先ほどからずっと出ている開かれた学校づくり協議会の人の集め方の部分に関する提案です。先ほど委員が地域は非常に苦しいというようなお話をされて、人が集まらないんじゃないかというような話をされたんですけども、結構、私、楽観的に見ております。というのは、少し話がそれるかもしれませんが、私が共同研究をしているアメリカのサンディエゴの研究者がいるんですけども、地域住民を集めて、学校の空き教室で地域住民に健康教育をやるという活動をしている人たちなんですけれども、必ず行政に行って、この地域のナチュラルヘルパーはだれだというのを紹介してもらうんですって。ナチュラルヘルパーって何だろうとずっと思っていて、調べたところ、ナチュラルキラー細胞って聞いたことがありますか。がん細胞を殺すナチュラルキラー細胞、悪い細胞を殺す機能があるんですが、ナチュラルヘルパー細胞というのがあるそうで、いいものをたくさん寄せ集める機能を持っている細胞なんですって。そういう人というのは、地域にいるよね、一人ぐらいという感じのことを、ナチュラルヘルパーを地域で探すと言っていたこともわかったんですけども、必ずそういった方がどの地域にもいる。だから、1人目だけまずはどこかが探すというところだけ固めてしまえば、それ以降の人たちはどうやって探したらいいとか、どういう人を集めたらいいというのは、あんまり固め過ぎないほうが、その地域の独自性が出るんじゃないかなと思いました。ですから、その中の一環として、例えば先ほどすごく斬新なご提案がありましたけれども、最近、行動経済学でナッジという手法がはやっているんですよ。ナッジというのは、ちょっとひじでつつくという意味があるんですが、例えば協議会という名称をプロジェクトチームに変えると人が動くというような、そういうちょっとした発想、そういうものが取り入れていけたらいいのかな。そのモデルを幾つか次年度に検討するというのがあるのかなと思いました。

それから、2つ目の提案です。いずれにしても、人集めのところはあんまり固め過ぎないんですけども、どういうふうにしたら機能するか、どこをしっかりと押さえておくべきかということを考えたときに、私は、きょうの①、②、③とあるうちの①の「共有」が肝だなというふうに思いました。というのは、どうしたらみんなで子どもたちの状況を共有して、同じゴールに向かって歩めるかということを考えたときに、右上のプラン・ドゥ・チェック・アクションのチェックが「共有」と連動するとういかなと思いました。

というのは、私の偏見かもしれませんが、今、学校というのは、チェックもどっちかというドゥ寄り、プラン・ドゥ・ドゥ・ドゥという感じで、あんまりチェックし切れていないのかなと思うんですね。例えば、学校評価アンケートを保護者にやるとか、子どもたちの学力調査、体力・運動能力、運動習慣等調査とか、いろいろあると思うんですけど、学校はそれを集計してフィードバックしてというのは非常に難しいと思うので、そういうところこそ、どなたか担い手を固めておき、ここに関わる地域の方たちみんなでそういうものを客観的に見ることができるような仕組みができると、じゃ、それだったらこうやろうねという次のステップに進むことができるのかなと思うんです。

これは必ずしもこの協議会に限ったことではなくて、地域のいろんな担い手が、新しい人が入ったら全然地域のことがわからなかったりするじゃないですか。でも、共有できるものをちゃんと見定めておくことで、共有することと、新しくかかわった学生でも、若い人たちでも意見を述べられるという、次のアクションにつながるができるのかなと思うので、チェックの体制をしっかりと固めておくということができたらいいのかなと思いました。

以上、2点になります。

【委員長】

ありがとうございます。人集めの点とどうした機能するかという非常に示唆的なご意見をいただきました。非常に参考になるというか、わかる話を聞きまして、皆さんもそうだと思います。

【副委員長】

皆様、本当にいろいろ議論いただいて、私もとても勉強になりました。ありがとうございます。

まず、包括的なといいいますか、まとめるような立場かどうかよくわからないのですが、この仕組みは、つくったとしても、恐らく地域側や家庭側が協力しなければ何もならないというところはまず大前提だと思います。この仕組みがあるからどうなるものではなくて、どのように私たちが一緒に動かしていくのかということをもとに考える必要があります。先ほど委員が共有が大事だというふうにおっしゃって、全くそのとおりだと思います。仕組みがあるだけでは動かなくて、その仕組みをどのように皆さんと価値であるとか考え方を共有したりしていくのか。ただ、同時に、このような仕組みは、価値をただ共有するだけではなく、異質な価値を入れていくところでもあります。多様な人々が参画しながら、

皆さんで議論できるような場所をつくっていき、そして、それが同時に子どもたちのために、学校を盛り上げていくためにどうやれるのかということと一緒に考えていくという場としてまず考えていく必要があるのかなと思っています。というのは、今、どうしても制度論的な話になっていくとか、制度の形を考えていけばいくほど、なかなか硬直的にならざるを得ないところがあるので、まず根本のところは少し押さえておいたほうがいいのかなどというふうに思いました。

その上で、今回、皆様からご意見を伺いながら、協議会というものの位置づけはいいんですが、協議会のメンバーシップというものをもう少しいろんな形で考えていく必要があるのかなとは思っています。

というのは、例えば図の中では、協議会の中に3つの機能があるわけですね。学校運営協議会もあれば、サポーターの機能もあれば、本部の機能もあって、だれがどう担うんだらうというところは、この図からはわかりにくいところがあります。ただ、先ほど委員のご意見の中でも、協議会は最終的には幾つか、特に運営協議会の機能がどうしても必要なので、学校運営方針とかの承認をするとか、そういったかなり重要な機能もありつつ、さらにサポーターの方々も全部やるかといったら大変ですよ。そうしますと、恐らく協議会的なものもありつつ、分科会でもいいですし、サポータークラブでもいいですし、専門部会でも名前は何でもよいのですが、それは後で皆さんが心地よい名前を考えていけばいいと思うんですが、そういった下位部会を用意することによって、協議会に入ったら全部やらなくてはいけないというわけでは全然ないんですよということを意識しつつ、だけど、協議会の機能はきちんと動けるような制度は、ある程度考えてもいいのかなと思っています。

その上で、とても重要なこととして、私は、今回、幾つかの議論があったと思うのですが、今の協議会に例えば保護者の方があまり入っていないということ、さらに、私はジェンダーバランスもとても気になっています。あと、出ている年齢のバランスも、協議会には必ず多様な人々を入れておく必要があるだろうというように思っています。

武蔵野市はそこまで自治会が強くない。そもそも全ての地域に自治会があるとは限らない仕組みをとっているので、この手の協議会をつくっても、全員自治会の役員が、年齢もかなり上の、しかも男性だけという状況はあまりないのですが、とはいえ、バランスを意識しておかないと、先ほど言った多様な意見を持ち寄って皆さんで考えていくという部分がなかなかできなくなるので、協議会側にはバランスを持ったメンバーシップというのを前提としていく、あるいはある程度目標としていくということを規定しておく必要があると思

っています。

また、もう一点は、事務の負担に関してですが、例えば浜松市がたしかコミュニティスクールディレクターという人材を用意し、協議会ごとに事務負担を行う職員を用意しています。それが今の副校長等事務補助に当たるのかどうかは仕組み的な話なのでご検討いただければと思いますが、確かにこう仕組みを導入すると、事務とか調整というのは本当に大変で、そこでもう面倒くさくなってしまうということはよくある話です。そういった負担はできるだけ避けて、自分の強みをできるだけ生かしたりしながら参画できる仕組みをつくっていくこと。また、先ほど行政の委員からも、教育委員会としてもできるだけ協力をという言葉があり、大変心強いのですが、学校側もできるだけ空き教室の利用を柔軟にしていくなか、そういった設備利用を柔軟にするとか、今、学校の改築も始まっていますので、そういった計画ともある程度連携しながら、協議会に関わる方々、サポーターに関わる方々が参加しやすく、かつその人たちが学校という舞台上で活躍したり、何か参画しやすいような補助の仕組みをもう少ししっかりと考えていくことができたらというふうに思っています。

ただ、今、皆さんにいろいろいただいた意見というのがとても重要なので、こういった意見を踏まえながら、より具体的に制度としてやりつつ、だけど、同時に価値観をどのように共有したり、また、その価値観に新しい考え方を入れていくような場ができるかということ私たち一人一人が考えていければというふうに思いました。

大変勉強になりました。ありがとうございます。

【委員長】

ありがとうございます。非常に多様な部分にわたって貴重なご助言をいただきました。

今、おっしゃっていただいたこと、いわゆる多様性の問題だとか価値観をどうするかという本質に触れるお話をいただきました。ありがとうございます。

時間もぎりぎりになってしまっていて、毎回押してしまっていて申しわけなかったんですけども、私も4回の会議で非常に多くの学びをさせていただきました。基本は、ここに事務局も出していただきましたけど、子どもたちの学びや育ちをどう高めていくのかということですね。これは例えば平面だからこうなっていますが、多分、立体的になると、こういうふうに組織があって、子どもたちが矢印で色がついていますけど、ある意味では、立体的になっているんだと思うんですね。子どもの成長をどうやって私たちが支えていくのかということですね。

OECDが出したプランの資料を見ると、その中にエージェンシーという言葉を使って

いるんですね。エージェンシーというのは、エージェント、代理店という意味なんですけど、そこで使っているのは、子どもたちの自己変革能力、自分が変わっていく力をどう育てるのかという、そのために、私たち、学校であれば先生方、保護者、それから、地域の方たち、子どもたちが自分の力をどうやって変えて未来志向にいくかという、それをサポートする地域の方々をコ・エージェンシーと言っているんですね。いわゆる協働的なエージェンシーということなんですけど、そういう力を育てるといって、それがこの図にあらわれていて、すごくすてきな図だという気がいたします。これは平面だから、あらわしにくいところなんですけど、事務局も苦勞して、子どもたちの学びをどうやって育てるのかというのをすごく大事にしている。

もう一つ、最後に申し上げたいのは、いろんな学びの中で、横文字になって恐縮なんですけど、ラーニング・オーガニゼーションという言葉があって、通称、LOと言っているんですけど、学びの組織ということなんです。学ぶというのを組織していく、自分たちが学びながら物事をつくっていく。まさに開かれた学校づくり協議会、我々がやっていることというのは、最初からがちゃんとあって、それをルーチン的にこなしていけばいいですよ、という話じゃないんだと思うんですね。やりながら、学びながらつくっていく、そして、場合によっては、ちょっとまずいなと思ったら、引き戻したり、それから、ある意味では変えていく、チェンジしていく、そういうこともすごく大事なことだというふうに思います。

そういう意味では、我々が協議したこと、僕は非常に実りある協議をしてきたというふうに思っていて、また、事務局も非常にいいまとめをしてくれて、非常にうれしく思っております。

非常にいいんだけど、1つだけちょっと言わせてもらっていいですかね。資料1-2のど真ん中の開かれた学校づくり協議会のところが、正直、黄色があまりにもうるさい感じがするんですよ。ちょっとごめんなさいね。色合いを工夫してほしい。中身は全然問題ないんです。中学校の美術の先生方に色を見てもらうといいかなという気がしまして。というのは、この資料はこれから、例えば地域に出ていくときに、イメージとして示されますよね。皆さん、こういうことを各学校とか武蔵野市がやっていくので協力してくれませんかという大事な資料ですので、センスのあるものがないかなと。僕は自分がセンスがないものですから言えないんですけど、ちょっと思ったところでした。

余計なことを言って、いつも反省しているんですけども、僕が言いたかったところは2つなんです。多様性を大事にすることとか、ラーニング、お互いに学んでいって、組織を

よりよくつくっていくということでございます。その意味では、来年度になるかもしれませんが、ガイドラインをつくったり、方向性をつくったりというようなこともあると思うんですけど、私たちがよりよくつくっていけるような組織になればいいなというふうに思っているところです。

ぎりぎりになってしまったんですけども、皆さんから改めて、ちょっと言い忘れたなどが、今年度はこれでおしまいになりますので、どうぞ何かあったらおっしゃってください。

オンラインの3人の皆さん、何かございますか。

締めてよろしいでしょうかね。

皆さん、いかがでしょうか。ございませんでしたら、委員長として非常に至らなかった部分がありましたけれども、今年度はこれで締めさせていただきます、来年度も引き続きお願いしたいというふうに思っておりますので、事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。

(2) その他

【指導課長】

委員の皆様、ご協議ありがとうございました。

それでは、資料3、学校・家庭・地域の協働体制検討委員会、今後の進め方についての案をご覧ください。

本検討委員会は、令和3年度今年度に4回、令和4年度の来年度に4回の計8回を予定しています。本日の協議をもちまして本年度の検討委員会は最後となり、来年度は記載のと通りの日程で開催を予定しています。

また、第6回検討委員会の後には、パブリックコメントで広く市民の方からもご意見を伺う予定です。その後、第7回、第8回の検討委員会では、パブリックコメントの内容を確認しつつ、教育委員会に対する報告をまとめていただきます。

令和5年度以降については、いきなり全小中学校で実施していくことは難しいため、モデル事業として実施しながら、効果検証を行っていきたいと考えています。2年間のモデル実施期間を経て、その後、第4期武蔵野市学校教育計画の開始年度である令和7年度から本格実施をしていきたいと考えています。

また、枠外に記載していますが、次回の検討委員会までに4か月弱の期間がございます。この間で各団体の全体会などがございましたら、本日の資料1-1、資料1-2などを使っ

て、各団体のほかのメンバーの方にも本検討委員会の情報を共有いただき、第5回検討委員会の際にそれぞれの団体のご意見を持ち寄っていただきたいと思います。資料については教育推進室にご連絡いただければ、必要な部数を準備いたします。まず色を変えます。

なお、委員の皆様の任期は、来年度末の令和5年3月31日までとなっています。協議の継続性を考えますと、今の皆様に引き続きお願いしたいと思っておりますが、各団体からの推薦の事情などによって交代が必要な場合は、教育推進室までご連絡ください。

資料3についての説明は以上です。よろしくお願いいたします。

【委員長】

事務局から今、資料3について説明がございました。何かご質問ございますでしょうか。

【委員】

米印で書いてあったところなんですけれども、私だと、例えばP連に当たるんだと思うんですけども、そこで私がこれを説明するというのはちょっと困難というか、ハードル高いなと思うんですけど、説明については、市のほうからお願いできますでしょうか。

【指導課長】

ご相談いただければ、私か教育推進室のほうでご説明に伺わせていただきたいと思います。お待ちしておりますので、またそういうことにつきましての日程等、決まりましたらご連絡いただければ、しっかりとご説明もさせていただきますと考えております。

【委員】

ありがとうございました。

【委員長】

来年度についてのお話がありましたが、何か不安とかございましたら、どうぞお願いします。

よろしいでしょうか。

それとあわせて、我々の会るときにいつも傍聴の方もいらしていただいて、貴重なアンケートをいただいておりますので、そういうのも参考にしながら我々は意見を言っていますので、そういうことも含めて、いろんな意味で多様な意見が聞けていることもこの会のよさだと思っておりますので、それを生かしながら進めていければいいなというふうに思っております。

では、ほかに意見等ないようでしたら、事務局からの連絡事項がございましたら、よろしくをお願いします。

【指導課長】

それでは、事務局から連絡事項をお伝えいたします。

次回の委員会についてです。次回の委員会は、令和4年5月12日（木）の開催を予定しております。時間は同じく18時からですが、会場は市役所西棟4階の412会議室を予定しております。開催のご案内や資料については改めてお送りいたしますが、ご予約くださいますようお願いいたします。

最後に、この委員会に関しまして何かございましたら、指導課教育推進室までお問い合わせをお願いいたします。

以上です。

【委員長】

ありがとうございます。次回は西棟の412の会議室ということですね。コロナの状況がおさまって、対面でしっかりできればいいなというふうに思っております。多分、そのころは、副委員長はロンドンからお帰りのころなんでしょうか。

【副委員長】

PCR検査が陽性でなければ、来月帰国する予定です。次回には普通に国内におりますので、皆さんと対面で参加できると思っております。よろしくをお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございます。またそのときにはロンドンの情報などもお聞きしたいなと思っておりますけど、来年度からこちらに来ていただけるということでございますのでうれしく思っております。

今までのご意見とかいろいろございましたが、今、指導課長もおっしゃっていただきましたように、教育推進室でいろんな対応をしていただけるということでございますので、それこそ開かれているわけですので、ぜひいろんな意見を言って、この検討委員会を皆さんでつくっていただければいいなというふうに思っております。

それでは、最後に全体を通して質問、ご意見等があればよろしくをお願いいたします。

よろしいでしょうか。

3 閉 会

【委員長】

きょうは二、三分過ぎてしまいましたけど、大変長時間にわたりましてご協議いただいた

ことを感謝申し上げます。

以上をもちまして第4回検討委員会を終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(了)